

科目名 健康支援援助論Ⅱ 時間割表記名 健康支援援助論Ⅱ	配当時期 2年次 前期 単位数 1単位 時間数 30時間(15回)	講義担当者 東 満永 濱崎 友実 (実務経験のある教員)	
事前学習内容 事例に用いる疾患については事前に病態生理・治療・看護を学習して臨む。			
授業目標 1. リハビリテーション期にある対象および家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. その人らしい生活を再構築していくための支援について理解できる。 3. リハビリテーション期にある対象および家族に対し、多職種チームで連携しながら社会復帰に向けた支援を理解できる。			
DPとの関連 DP1. 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された生活者として理解することができる。 DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。			
授業の流れ			
回	学習内容	方法	備考
1	【事例展開】脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護(壮年期)	講義	テキスト①②③④⑥
2	1.回復過程にある対象の意図的な情報収集 1)脳機能の障害による症状と程度 2)発達段階の特徴	演習	
3	2.脳機能に障害(脳梗塞)のある患者のアセスメント	講義	テキスト①②③④⑥
4	1)障害による日常生活、社会復帰への影響	演習	
5	3.脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の看護問題の明確化・優先順位の根拠	演習	テキスト①②③④⑥
6	4.脳機能に障害(脳梗塞)のある患者の全体像の把握	演習	テキスト①②③④⑥
7	1)関連図による全体像の把握		
8	5.脳機能に障害(脳梗塞)のある患者への看護 看護計画の立案	演習	テキスト①②③④⑥
9	6.脳機能に障害(脳梗塞)の状態に応じた個別性のある日々の看護介入 1)看護実践スクリプトによる介入計画の立案 2)看護計画の実施・評価	演習	テキスト①②③④⑥
10	1. 運動器機能に障害(変形性膝関節症)のある患者の看護	講義 演	テキスト⑤
11	(老年期) 1)チームにおけるコミュニケーションの促進 2)社会復帰に向けた多職種チームとの協働		
12	1. 運動器機能に障害(関節リウマチ)のある患者の看護	講義	テキスト⑤

13	(老年期) 1)薬物を継続するための支援	演習	
14	1. 運動器機能に障害(脊柱管狭窄症)のある患者の退院支援 1)退院後の生活支援 2)退院指導	講義 演習	テキスト⑤
15	試験(45分) まとめ(45分)その人らしい生活を再構築していくための支援	試験 (筆記)	
<b>受講上の注意</b> ○看護過程展開技術実習と関連させて学習する			<b>評価方法</b> 筆記試験 レポート 出席状況
<b>使用するテキスト</b> ①系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 ②系統看護学講座 専門分野 成人看護1 成人看護総論 医学書院 ③系統看護学講座 専門分野 成人看護7 脳・神経 医学書院 ④系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ⑤系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 ⑥看護過程に沿った対症看護病態生理と看護のポイント 学研 <b>参考文献</b> ①系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践1 看護管理 ②看護診断のためのよくわかる中範囲理論 黒田裕子 医学書院			